



広報活動を考える

副会長 長瀬 清

医師会の広報には会員向け会内広報と会員外である一般市民（国民）、政官界、マスコミ等に対する会外広報がある。

日常診療上知り得なければならない多くの事柄を日常的に広報する、また、医療に携わる者として必要な学問的、政治的、経済的事柄を等しく全会員に知らしむる役割を会内会報は果たす。そして、会員の親睦の実もあげている。

ここでは、崩壊の危機に直面している世界で最も優れた制度と言われる、日本の医療制度を守るための対外広報をいかにすべきか考えてみたい。

1. 医師会が問題視している事柄を、会員も含め国民にいかに理解し、納得させるか

現在喫緊の問題は、混合診療の導入および医療への株式会社の参入が意図されていることである。これが何故問題かは、これまで多くの場で何度も語られてきた。しかし、依然として理解されていないのは何故か。会員の中にも是とする者もある。同じ仲間でも様々な考えがあるからではすまされない。具体的にこうなるというシュミレーションを示し、理解されやすくすべきである。

2. 対外広報をどうすすめるか

1) 決起集会

全国津々浦々で、決起集会を開くことも有効な方法であることは確かである。ただ、集会に参加する者が医療関係者のみではあまり効果は期待できないし、マスコミから一顧だにされないだろう。市民団体と手を組んだ運動を展開するには、市民団体との組織作りにかかなりの時間を要する。

2) ロビー活動

政策の立案、施行は官僚に負うところが大きであるが、決定権は政治の場にある。従って政治的活

動は極めて重要と言わざるを得ない。政治家は世論に極めて敏感であり、それも十分考慮に入れた上で（国民を味方につけて）、政治的活動を行うべきである。

3) マスコミ対応

2万人、3万人の決起集会を開催しても、それは局地的認識を得るのみで、面的広がりが図られなければ効果は薄い。雑誌、週刊誌および新聞のような活字媒体は、活字離れの現代社会では効力が半減した。しかし、今でもなお大きな力を持っている。莫大な費用を掛けた一面広告もそれなりの効果はあるが、数日で忘れ去られてしまう。毎日、毎日読者の目にさらすのが有効であるが、商品の販売のような経済効果と違い、費用対効果を考えるとなかなか難しい。もっと別な視点で対策を考えるべきで、本当に国民のためになるということ、理解し協力を得るような関係を構築するよう努力したいものである。

医師会は圧力団体で、自己の利益追求のみ考えている悪者だというイメージが強い。圧力団体と言われてもよい、国民のために戦っている圧力団体だと認識されなければ、全く運動にならない。

4) インターネットの活用

紙上活字離れでも、インターネットという新たなメディアは巨大な市場を提供している。これからの社会を築いていく人たちの、共通の手段としてのパソコンや携帯電話はこれからますます発展し、世の中の形態はこれまでと全く違ったものになるだろう。これらの人々への情報伝達を早々に図るべきだ。

5) 病院待合室のテレビの活用

多くの病院の待合室には必ずテレビが設置されている。医師会政策の広報番組をビデオ放映するよう協力をお願いしては如何か。さりげなく、か

つ面白く、短時間の繰り返し番組を制作することは有力な手段となる。

6) 映画制作と劇場上映およびテレビ放映

「ジョンQ」という映画はアメリカの医療保険制度に問題を提起する上で大いなる役割を果たすものだ。医療保険、介護保険制度上の問題点を含んだ映画の制作、上映も一つの方法であると思う。経費と採算の見合う作品が作れるか、検討の余地があろう。

7) 日常的市民集会

市民に対する医療の講演会には、極めて多くの人が参加する。町内会、老人クラブ、婦人会集会等の小集会から全市民に呼びかける講演会に、病気の話しに、医療問題のやさしい解説も加えては如何だろうか。

8) その他

ポスター、リーフレット、市民向け情報誌の作

成、配布。テレビ、ラジオでのスポット広告、衛星放送の利用。これらを日常的、継続的に行うとき有効な手段となる。

3. まとめ

BSE問題、遺伝子医学、佐世保事件等医療、医学に関する種々の問題が報道されない日はない。その割に医師会が姿を見せるという場面が少ないのではないかという指摘がある。そんなところに医師会の弱点があるのかもしれない。積極的に多くの問題に関わっていき、医師会はこれまでと違ったと一般に認識されるようなやり方が必要である。日医の新執行部は、広報を重要な日医の手段と考え、新たに会内会報の広報編集委員会の他に、広報戦略会議という委員会を作り、9月2日に第1回会合を持った。新たな会外広報戦略を展開するつもりである。大いに期待したい。

平成16年度日本医師会広報関係主要事業

1. 広報戦略会議・広報編集委員会の開催
2. 日医ニュースの発行（月2回—5日号、20日号）
3. 日医FAXニュースの発行（週2回—火、金曜日）
4. 理事会速報の作成（月4回）
- ※ 5. テレビ「からだ元気科」の放映（毎週金曜日）
【注】毎週金曜日の午前11時から日本テレビ系列全国31局で放映。
- ※ 6. 「日本医師会テレビ健康講座」(都道府県医師会と地方テレビとの協力で実施)
- ※ 7. 心に残る医療体験記コンクール【注】すでに22回実施。
- ※ 8. 「生命（いのち）を見つめる」フォトコンテスト【注】すでに5回実施。
- ※ 9. 新聞を媒体とした「意見広告」
- ※ 10. 日医ニュースの付録「ポスター」による医療問題の国民へのアプローチ
11. 全国ブロック別広報担当事連絡協議会の開催
- ※ 12. 定例記者会見（火曜日の理事会終了後）
- ※ 13. 緊急記者会見（重要課題について随時）
- ※ 14. 健康ぶらざ・健康交差点（日医ニュース付録）
- ※ 15. その他（ノバルティス地域医療賞審査・ファイザー医学記事賞審査）
- ※ 16. JPN（JMA PRESS NETWORK）

※主として対外広報を目的とするもの